

## 令和4年度福島県生涯学習審議会議事録

1 日 時 令和5年2月9日(木) 10:00～正午

2 場 所 中町ビル 2階 大会議室

3 出席者 別紙名簿のとおり

4 議 事

(1) 指標の設定について

(2) 福島県生涯学習基本計画の進行管理について

(3) その他

5 内 容

(1) 開会(司会 橋本生涯学習課主任社会教育主事)

(2) 挨拶(永田文化スポーツ局長)

(3) 委員紹介

(4) 定足数確認

○事務局より

福島県生涯学習審議会条例第5条第3項により、委員は15名であり12名の出席、定足数(過半数)が出席し、審議会が成立することを報告。

(5) 会長及び副会長の選出

○会長に福島大学木暮照正氏、副会長に鈴木秀子氏が選任された。

(6) 挨拶 木暮福島県生涯学習審議会会長

### 【木暮会長】

2期目2年間になるが、改めてよろしくお願ひしたい。コロナも大分落ちついてきているが、インフルエンザのこともあるので、今日は少し寒いかもかもしれないが、基本的な感染症対策として、事務局に暖房と換気の配慮をいただいている。12時までの予定で短い時間の中ではあるが、ツボを押さえた皆様からの御意見を頂戴できればと考えているので、よろしくお願ひしたい。これ以降は議事に入り、暫時進行させていただきたいと思う。

(7) 議事録署名人選出

○議長の指名により、原真理子氏、高橋澄子氏が選任された。

(8) 福島県生涯学習基本計画について

○事務局(鈴木生涯学習課長)より

策定趣旨、基本目標、推進施策について説明。

(9) 指標の設定について

○事務局(鈴木生涯学習課長)より

オンラインを活用した生涯学習講座数について説明。

○上記の件に関して説明し、以下の質疑等があった。

【清水委員】

59市町村で多少ばらつきがあるということであったが、オンラインを活用した生涯学習講座数は、どこの市からも受けられるような、ある市の市民向けということか。だとすると、全ての市町村で提供されることが大事だと思うが、その辺はどういう状況なのか。

【鈴木生涯学習課長】

各市町村においては、住民向けに広報し、そちらでアクセスしていただくという手法をとっている。今回の指標については、市町村の調査としているが、民間の事業者や大学等でも、それぞれオンラインの講座を実施している。そちらに関しては、それぞれの事情がある中での実施となっていることから、今回の指標には加えていないので御了承いただきたい。我々としては、市町村の担当者を支援してスキルアップを図り、住民がより参加しやすいオンラインの講座の増加を目指したいと考えている。

【清水委員】

やはり、59市町村全部で提供されることが大事だということである。

【木暮会長】

それでは、事務局提案という形でこちらを新たな指標に設定することとしたい

(10) 福島県生涯学習基本計画の進行管理について

○事務局（鈴木生涯学習課長）より

施策の方向、令和4年度の主な取組、指標の進捗、令和5年度の取組予定について説明。

○上記の件に関して説明し、以下の質疑等があった。

【安齋委員】

指標が出ているものについてはBが多いので、全体としては順調に進んでいるという印象を受けた。ただ、そうすると美術館のDが非常に目立って見える。要因として企画展が小規模で入館者が少ないが、年度末に大きい企画展があるので、それに期待していると受け止めている。美術館の入館者数というのは、大型イベントや大規模な企画展にかなり依存しているということになり、そういう意味では財源が必要だと思う。県の予算というのは毎年そんなに大きく出せないで、タイアップや出資してくれるようなスポンサーを探すなりして、大型イベントにお金を出せるところと一緒にやっていくことを目指すことを検討いただければと思う。

【井上委員】

市町村の講座企画がマンネリ化している傾向については、いろいろな研修も行っていると思うが、やはり職員の意識改革が必要だと思う。施策2の地域づくりにつながる学びの推進では、そもそもこの目標値が低いと感じた。実際感じていることは、上向きにはなっているとは言いつつも、コロナが長引くことにより、さらに危機感を感じているような状況である。

次に、施策4のオンラインを活用した生涯学習講座数で、そもそも環境の整備にかなりばらつきがあるのではないかと思う。オンラインを進めるということであれば、財源の制限はあるだろうが、その環境整備がもう少し進んでいかないといけないのではないかと思った。

【國井委員】

市町村生涯学習講座受講者数について、いわき市にある公民館の館長をやっており、受講者数が

少ないので増やすにはどうしたらいいのかを考えている。いわき市では、公民館講座や生涯学習施設の市民講座等を行っている。また、サークル活動も行っている。サークル活動をしながら学んでいくやり方や学習成果の発表も行っている。そういったものを市民の方に情報提供し、さらに利用していただきたいということから生涯学習ポータルサイトを今年の3月から整備している。県全体の指標になるので、それぞれの市町村でいろいろやられていることをつないで県民に知らせるようなポータルサイトがあるよと思う。

資料2の新規事業として生涯学習情報システム構築があったので、ぴったりだと思っている。ただ、市町村の講座には受講者を1市町村に限定しない県民カレッジ講座もあり、それぞれの市町村でポータルサイトを整備されているところもあるので、県で新しいシステムを構築するのであれば、市町村の負担のない形でやっていただければありがたい。

施策4(1)ICTの活用と学習情報提供の中で、学習情報提供体制の充実とある。それぞれの施策ごとではなく、総合的に情報提供体制を整備するのがよいのではないかと。施設の情報や生涯学習担当職員の能力の向上に関わる情報、活躍の場の情報提供があると指標を達成する可能性が高まる。さらに、講座情報を見つけづらいということが全国的な課題になっているので、働き世代への情報提供など、総合的に提供できるような機能があるとよい。

#### 【熊ヶ谷委員】

総合型地域スポーツクラブに所属し、南会津町の公民館でも働いている。公民館でも講座の中にICTやオンライン活用をいろいろな形で考えているが、実際は住民の方にそこまで浸透していない。特に高齢者を対象とした講座に関しては、全く耳を傾けてもらえないような状況にある。来年度からは、まずスマホの使い方から地道に慣れ親しんで、アレルギー反応を起こさないような形でやっていきたいというのが現実的などころである。資料1の件数の設定に関しては、本当に無理のない設定でやっていただきたい。併せて、担当する者のスキルも大切なので、スキルが向上する学習の機会をもっと積極的にとっていかなければいけないと感じている。

芸術文化に関して南会津町では、小学校3年生の授業の中で町の伝統文化としての歌舞伎の授業を行っている。プロの先生をお呼びして12月には総合的学習の時間の発表の場として大人の歌舞伎と歌舞伎保存会、そして3年生の授業の中で学習した歌舞伎を発表して、地域で伝統文化の意識を高めている。今は1校のみだが、来年度からは他の小学校にも働きかけて、1回でも2回でも授業の中に入れてもらうことによって、子どもたちから伝統文化を発信して意識付けもできるような頑張っている状況である。

#### 【清水委員】

丁寧に説明いただき非常によく分かった。昨年6月に福島に来て、県内をいろいろと回っている。そこで、マーケティングが全体的な課題かと感じた。例えば、県立美術館に行った時に感じたことだが、興味のある人はホームページを見るが、それほど意識しなくても、こういうのがやっているのだったら行ってみようと思えるようなものがあるとよい。誰をターゲットにしてどう発信するのかを考えることも必要である。

例えばインスタグラムやSNSも活用していると思うが、最近はそういうもので何か引っかかることがある。世の中に猫好き犬好きはいっぱいいると思うが、朝倉撰さんも猫などのイラストをかわいているので、猫好きがそういうのに引っかかって行ってみるなど、なにかうまいことひっかけた展示や少しターゲットを意識したツールがあるとよいと思った。受け身で興味のある人が見てくださ

いというよりは、こういうものがあるのなら福島に行って美術館に行ってみようとなると、もう少し入館者が増えるのではないかと感じた。私自身も実は自分で見つけたわけではなく、妻が情報を見つけてきて教えてもらって行くこともあるので、そういう SNS の活用方法は一つ課題としてあると感じた。

福島県次世代育成支援企業認証数が増えているという報告の中で、入札時の加点メリットというのが結構必要なのかと感じた。例えば成人の週 1 回以上の運動スポーツ実施率において、運動をされていると思うが、多分、お年を召した方になってくるほど、減っていくのではないかと。では、今までやってなかった人がやるようになるためには、ライフステージに応じた機会が提供されていることに加えて、例えば寝たきりになる確率が何%減るということを伝えればよい。皆さん健康をとでも意識されて、健康寿命を伸ばしたいと思っている方がほとんどだと思うので、何かそういうメリットや関心に合うような発信をされるなど、ほぼ全てのテーマについて言えることだが、参加率を高めるのに寄与すると思った。

#### 【鈴木秀子副会長】

住民の皆さんにとっては、市町村で開催する生涯学習はとても身近なものなのだと思う。実際は住民に身近な市町村による生涯学習を支えているのは、市町村の公民館であり、いわゆる社会教育主事の皆さんである。その育成は、どのように行われているのか。それからネットワークなど、そういう情報を共有する場があるのか。それによって、各地域の生涯学習というものが変わってくるだろうし、県内のばらつきも無くなってくると思うので、その担当職員の育成というところも県の役割なのではないかと思った。ICT スキルに関しても同じではないかと思う。担当職員の方が ICT スキルを持つというのは、これから必須になるので、そういったところも含めての育成も考えていただけないかという感想を持った。

それから、生涯学習プラットフォームの構築は、とても素晴らしいことだと思って聞かせていただいた。その中で、いろいろな情報を発信していくということであったが、情報はホームページにアクセスしないと、なかなかたどり着けないのが今の発信の仕方かと思う。本当に必要があればホームページを開くが、なかなか皆さん開かない。そういう意味での難しさだと思う。例えば、私のいる短大で、学生はラインを開くがメールは開かない。本当に情報がいっぱいあるのに、なかなかそこにたどり着くのが難しい。紙媒体でお知らせをした時に、若者にとって一番手っ取り早いのは QR コードである。そこから一発でホームページに行くのが入りやすいようである。

そうすると、高齢者はどうするのかという話にもなってくる。QR コードはスマホなので、単純なやり方を覚えてもらえれば、たどり着きやすいだろうとか、その辺の今の住民の皆さんがどうやって情報にたどり着くのかということも少し調査していただくと、生涯学習としてやっていることが住民に届きやすくなるのかもしれないと思う。

それから、ある先生から市町村の広報紙について話があった。広報紙というのはたくさんの情報を自治体が住民に向けて発信している。一方的に伝えている状態で、まず、細かい広報誌を読むことは、楽しみである人も一部いるけれども、文字がいっぱいで読まない人もいる。でも、一番大事なのは何かというと、手渡しだと言っていた。手渡しをして渡す人と渡される人とのコミュニケーションが生まれるのが、とても重要で安否確認にもなると言っていて、ああなるほどと思った。ただ、これは若い人は嫌なので、若い人にはやっぱり別な方法しかない。しかも、SNS のようなものになると一方的な情報発信になる。それが、双方向でできるようになるとまた違うかもしれないが、

この生涯学習情報をどう届けるかというのは年代層によって違うと思うので、そこを整理して発信していくことが大事かと思った。

民俗芸能というのもとても興味がある。民俗芸能というのは地域の人の誇りであり、それから地域づくりに最も適切な媒体だと思う。この中で活動停止している民俗芸能が結構あり、もう細々になってしまったものもあると思う。果たして県内にどれくらい民俗芸能と言われるものがあるのか分からない。全体に幾つあってどれくらいの活動が来ているのか、細くなって停止しそうなものをどうやったら持ち直すことができるのか。地域の人の生涯学習や地域づくり、社会参加などを含めた時に、大切なツールは民俗芸能だと思うので、単に発表する場をつくるだけではない取組もしていただくとよいと思った。

**【鈴木宏昭委員】**

令和4年以降の話を聞いた中で、感想と少し質問もしたい。まず、指標の進捗状況の評価であるが、評価Bとあるのは、単純に達成率で決めたところなのか。また、この折れ線グラフが目標値だと思うが、これは年々上がるものなのか。

**【鈴木生涯学習課長】**

目標値の評価に関しては、資料3の上部に書いてあるとおり、数値を比較して、A B C Dそれぞれの割合で評価している。目標については、昨年度の審議会の中で審議していただき、指標として採用させていただいたものに関しては、基本的には今後伸ばしていく必要のあるものを掲載している。ただ、今後人口減少がある中で博物館や美術館に関しては、伝承館もそうだが、伸ばしていくことを目指しているが、なかなか伸ばしていくことが難しいところは横ばいという指標をとっているものもある。

**【鈴木宏昭委員】**

目標値なのであまり厳しいことは言えないが、美術館等は先ほどもあったとおり、イベントによって入場数が変わるという話を伺った。高水準でいくのであればいいのだが、年によっては減少もあり得ることだと思う。

次に、福島県は、東日本大震災とそれに付随するオリンピックが大事だと思うが、東日本大震災からの復興の中で若者向けの事業の予算が少ないような気がする。やはり福島県の震災の状況は伝承によってつながっていくと思うので、できるならばそういう予算をたくさんつけていただければと思う。

最後に、資料2の6ページの下に、オリンピックパラリンピックレガシー事業として、東京都と被災3県の交流事業とある。具体的に分かる範囲で、どういう交流事業を考えているか教えていただきたい。

**【滝田スポーツ課長】**

現時点での東京と被災3県の交流事業は、岩手、宮城、福島で、それぞれ違う種類のスポーツで交流することを考えている。福島はソフトボール、宮城はサッカー、岩手はこれから検討になっている。東京の子供たちと、岩手、宮城、福島の子どもたちが、東北の3県に集まって交流する。小学生や中学生、場合によっては高校生が集まってくる。

今年度行った事業としては、福島の場合、ソフトボールで交流をした後、日米ソフトの試合を見たり、伝承館や被災地を見たりして選手と交流した。宮城の場合、小学生たちがサッカーで同じように交流して、宮城の被災地を見学した。次年度は、3県で開催することになっている。

**【鈴木生涯学習課長】**

先ほど東日本大震災に係る生涯学習の事業の予算額に若干不満があるということであった。昨日届けさせていただいた資料3の15ページを開いていただきたい。資料2では、代表的なものだけ概要を説明させていただいた。こちらの資料3を見ると、県庁の各部局における各世代にわたる防災、放射線、放射性物質に関する知識、また、産業に関すること、さらに、小中高等学校の様々な学習の機会を提供していくために部局連携で実施している。本年度から、各部局連携において、隙間がないように事業を展開し、重複して効率的でないところを解消するため、庁内連絡会議を設けて意見交換している。本日の意見をまたそちらで紹介させていただきながら、さらに効率的な事業の展開につなげていきたい。

**【鈴木宏昭委員】**

皆さん御承知のとおり、近年では福島県において東日本大震災とオリンピックが非常に印象に残るものなので質問させていただいた。

**【鈴木道代委員】**

施策1の指標3個別教育支援計画の引継ぎ率で、目標値が100になっている。引継ぎ率ということだと思うが、どういう状態を100というのか。特別支援学級、特別支援学校、通級による指導の引継の他、通常の学級では本人と保護者との合意形成が得られない場合もあるということである。現在、グレーゾーンと呼ばれているお子さんがとても多いと思うが、そういうお子さんについてはどうなのか、今後の取組になるとは思うが教えていただきたい。誰一人取り残さない教育制度は、とても素晴らしいことだと思う。

次に、地域のコミュニティの活性化の推進の親の学びの支援について、これもとても大切なことだと思う。行政機関や福祉関係と連携するということであるが、地域も連携して子育てをしていかなければならないと思っている。私たちの町の話の中で、親に対する教育はもう遅いのではないかとということを皆さん言っているので、ぜひ進めていただきたいと思う。

それから高齢者の方へのデジタルデバイドの解消についても、先ほど意見があったように、私もオンラインと言われると拒否ぎみになってしまう。そこは本当によくやっていただき、たくさんの方がICTに抵抗なく生涯学習として勉強できるようになると良いと思う。

最後に、アクアマリンふくしまについて、たくさん子どもを連れて放課後子ども教室等で行くことがある。入って遊ぶのはいいが、休憩できる場所があるともっと使いやすい。朝から行って夕方までいられるとよいと思う。お昼を食べる場所がないばかりに表に出て別なところへ移動する。夏は表に出て食べることも出来ないし、冬も寒さが厳しいことがあるので、そういう場所があればよいと思っている。資料を見ると周りのいろいろな企業と連携して施設を運営していくとあるので、もっと来てくれる方が増える施設になるような連携も必要だと感じた。

福島県生涯学習基本計画関連事業一覧の3ページの下にある高齢者の介護に関する事業が充実していると思った。どういう方が来ているのか、例えばそれを受講された後に資格は取れるのか知りたいので教えていただきたい。

**【鈴木生涯学習課長】**

1点目の個別教育支援計画の引継ぎ率の100を意味するところについては、特別支援学級や特別支援学校に所属されているお子様については、計画を立てて引き継がれている。通常学級にいて、先ほどのグレーゾーンのお子様で支援が必要だなと感じられている方については、一応リストが整

備されている。ただこの方に対して、保護者の方に御理解をいただきながら計画を作成して進めていきたいと思いますところの理解が進まずに計画の作成につながらないので現在70%というような実績になっている。

#### 【安齋委員】

介護の講座は、私どもの方でもやっているが、基本的には資格を目指すよりも家庭で実際に必要になっている方や将来そういうことを心配されている方が、勉強したりテクニックを身につけたりするため、一般の方向けにやっている講座であると思う。

#### 【高橋委員】

新たな気づきもあり、今日この場で本当に学ばせていただいている。まさに生涯学習だと思った。小学校の教員をしていたが、退職をして現在は中学校で不登校の子どもたちの支援をしている。

まず、個別の支援計画の引継ぎ率が生涯学習課の施策に入っているということに改めて気づかせていただいた。義務教育課でもないし特別支援教育課でもない。それが生涯学習課でこの指標を上げているというところに意味があるのだろうと思った。基本計画の中で、幼稚園、小中学校高等学校において、支援を要する子供の支援計画を引き継いでいくということが明言されている。子どもたちは生まれてから3歳ぐらいで支援が必要だということが見えてきた時に、例えば幼稚園ではなく保育所に上がると厚生省管轄になる。だからこそ、知事部局の生涯学習課の中で子供たちの支援計画がずっと引き継がれていかなければならないのだということで、ここに上げられていると思う。中学校でも不登校は多いが、その子どもたちが高校に上がらない。全日制の高校を選ばずに、通信制の高校を選ぶ子がとても多い。そうなった時に、もうそこで支援計画や引継ぎがストップしてしまって、すぐに引きこもりになってしまうなど、いろいろな問題が考えられる。そうなった時に、生涯学習の中で生まれてきた子どもたちが、どういうふうに支援されていくのかということとずっと引き継いでいくことは、とても大事なことだと思った。

次に、ICTについてである。学校でICTがたくさん使われている。GIGAスクール構想で、子ども1人に1台のタブレットが配付されている。新地町はもともと情報教育がとても進展しており、ネット環境も整っている。学校や教室に行けない子どもも、オンラインで同じ授業を受けている。教師が不登校の子どもがいる教室で画面を見ながら授業をしているという状況も生まれている。子どもたちは、1人1台のタブレットを本当に上手に使う。それが生涯学習として、大人になっても高齢者になってもずっとつながって、使い続けていけるような環境をつくっていかねばならないと思う。人と人との関わりがなかなか出来ていない状況において、子どもたちがもっているすごいスキルを、大人の人や高齢者の方々に教え関わることで、教え合ったり学び合ったりできたら素敵だろうなと感じた。

#### 【原委員】

指標の目標値を見ると体験型に関しては、達成されている。県文化財センターは分からないが、美術館は少し敷居が高いのかなという印象がある。体験講座も行っていると思うが、絵画講座や絵本作家の読み聞かせ会などがよいのではないかと感じた。これからオンライン活用がもっと増えてくると思う。

次に、ICTの推進においてシニアの方は苦手意識があると思うが、積極的にやっている方もいる中で、ウイルスだったり、ネット回線の二重契約だったり、フォローが必要なところがたくさんある。県の方から講師を派遣して、注意事項や気をつけなければいけないことをもっと広めていく必

要があると感じた。

最後に、東日本大震災の風評被害について、私たちの団体でも、避難者と若者・地域住民との農作業を通じた交流会を開いている。米づくりの後、いろいろ技術を持った方たちと避難者の方たちが話をする場になっているので、農業技術者と交流する機会や講師として呼ぶ機会がもっとあってもよいと思った。

#### 【平野直樹委員】

それぞれの指標で評価をされており、県立美術館や県文化財センターは、評価がDになっている。私の感想だが、評価としては必要かもしれないが、例えば講座をたくさんすればよいとは思わず、中身も大切なところかと思う。これから毎年度この評価をつけていくと思うが、実施している講座の内容を記載するなど、評価は低い为中身はしっかりしているところをつけ加えていただければよいかと思った。

#### 【渋川社会教育課長】

先ほどの鈴木委員から話があった社会教育主事の育成という点について説明したい。地域の社会教育推進において、専門職としての社会教育主事というのは非常に大切なものと考えている。

毎年、約20名から30名の希望した福島県代表が、山形・宮城・福島3県合同で約半年間かけて、社会教育主事の講習会を行っている。そういうところで専門性を高めた方々が、学校また地域に帰っていく。入り口としては公民館や教育行政、学校の現場であり、社会教育主事のレベルアップ、資質向上も非常に大切だと思っている。その点で言うと、資料2の16ページに社会教育指導員も含め、公民館の新しく社会教育主事等になられた方への研修会等を行っている。この中で、ベテランの公民館の社会教育主事の方々のたくさんの意見を情報共有しながら、それぞれの地域での社会教育推進に寄与する形の研修会を行っている。

また、小中高全ての学校に地域連携担当教職員という役職を設置しており、芸能や文化といった地域を学びのフィールドとして、学校外に飛び出し、学校での授業以外の学びを補完している。そういう考え方で、地域の入り口としての地域連携担当教職員になっている社会教育主事の方もいる。こういう社会教育も含め、地域連携担当教職員の研修も実施している。

このように、各地域での取組と情報を共有しながら、それを地域に持ち帰り、地域ならではの社会教育推進に寄与するための研修会等を実施している。

#### 【川名文化振興課長】

先ほど鈴木秀子副会長から、民俗芸能関係の話があったので触れさせていただきたい。まさに本県における地域の宝と認識しており、その継承と発展のための事業を行っている。具体的には、資料2の8ページ下の「地域のたから」民俗芸能総合支援事業を文化振興課で担当している。県内に民俗芸能がどのくらいあるのかということについて、状況や時期によって異なるので、詳しい資料は持ち合わせてないが、調査対象として637団体に民俗芸能の調査をしたことがある。その内、回答のあったものが429団体で、7割弱の団体から回答いただいた。やはり震災の影響もあるが、それ以前に全国的な少子高齢化の影響があり、担い手不足という課題がある。そういった部分に加えて本県における震災等の影響もあり、回答があった429団体のうち、一時休止あるいはもう途絶えてしまったというのが16%ほどあった。

我々としても、地域の宝をいかに継承していくかということが非常に大きな課題だと考えている。8ページにある通り、民族芸能の公演・発表の場をつくることとサポート事業の大きく2本の柱で

行っている。公演では、民俗芸能の発表の機会をなるべく多く設けることで、各団体がその公演を目指して、集まって練習するというプロセスが生まれる。そうすると、団体の方でも、継承の意欲が増し、幅広く県民の方に自分たちの民族芸能を知ってもらえることにつながる。機会を設けるといふ公演事業とともに、サポート事業として民俗芸能に関する専門的な知見を有している NPO 法人と連携してきめ細かい支援を行っている。例えば、地区ごとの研修会を開いたり、各市町村へ訪問して意見交換をしたり、民族芸能の団体の求めに応じて、個別に訪問してアドバイスをしたりという援助的な取組をしている。

公演と各団体の求めに応じたサポートという両面で、しっかりと民俗芸能の継承を守っていききたいと考えている。

#### 【鈴木生涯学習課長】

鈴木秀子副会長の意見と関連して清水委員のマーケティングの話や原委員からの農業技術者の活躍の場といったお話をいただいたが、情報提供に関しては ICT やウェブに走りがちではある。ただ、やはり現段階で高齢者の方は、まだまだそういったところに苦手意識を感じておられるので、デジタルとアナログのハイブリッドというものは引き続き続けていかなければならないと思う。そのため県民カレッジでは、ヨークベニマルさんや公民館等に、紙ベースで講座の情報を提供することは、これからも続けていこうと考えている。先ほど御意見いただいた QR コードを載せて、若い方もそれを手に取ってアクセスしやすいようにしていきたいと考えている。また、情報システムの中で、講座の情報と講師の方のページも設ける予定である。そこに、例えば市町村の方から、農業技術はこういう人が教えているというような話があれば、ぜひ載せていただく流れも整備していきたいと考えているので、情報システムを整備する際には、國井委員からも指摘があったとおり市町村の負担のないように、また、どうやったら皆さんの情報がうまく伝わるのかといった意見を聞きながら進めていきたいと考えている。

さらに、アクアマリンに関して、確かに休憩場所がないというような課題は抱えている。これに関しては、周りの施設との連絡協議会を設けているので、その場で議論していただこうと考えている。また、平野委員から講座についての御意見をいただいたが、こちらについてもアクアマリンの方で回数を維持して実施してきたが、少し質の低下が懸念されるということで、来年度は講座の開催方法についてももう少し吟味しながら質を重視してやっていくことを課題として上げているので参考にさせていただきたいと思う。

#### 【國井委員】

公民館や生涯学習センターについては、人を集めることが商売のようなものである。なので、どういう形でやっているかということがヒントになると思っている。我々も日々悩んでいるところだが、公民館は楽しい場所だということを考えている。原委員が言われたように体験活動を盛り込んだり、ワークショップを盛り込んだり、いろいろなことを考えて楽しく魅力ある内容にしたり、講師に有名な方を呼んだりしている。ただ、人を集めることが目的ではない。公民館として1番の目的は、つながりをつくることである。そして、つながった人たち同士での活動や発表会だけではなく、地域づくりにつながる地域活動、文化芸能であればその継承事業に行き活発に動いていただくことが1番目である。ある先生が言うには、やはりつながりだと言っている。つながることが楽しいと感じて、そのために来る方がほとんどだと思っている。

なので、そこをポイントにして美術館であっても体験活動を入れたり、バックヤードを見ていた

だいたり、職員が楽しくなるような企画をするよいと思う。ポータルサイトについても、1番大切なことは、利用者のニーズを把握することだと思う。ポータルサイトの中で、ニーズも聞けるような仕組みがつくれればよいと思う。

【木暮会長】

4番の議事の進行管理に関しては、ここまでとさせていただきたい。その他、議題が用意されているので事務局から何かあればお願いしたい。

(11) その他

- 事務局（小島生涯学習課主幹兼副課長より）より  
その他の資料について説明。

【木暮会長】

他になければ、これをもって議事は終了としたい。限られた時間の中で慎重に審議いただき御礼申し上げる。これをもって4番の議事は終了とさせていただき、進行を事務局にお戻ししたい。

(12) 閉会

- 御礼の挨拶（永田文化スポーツ局長）

以上 議事録に相違ないことを証する。

令和5年 3月 / 0日

議事録署名人

高橋 澄子



議事録署名人

原 真理子

